

大好き

拝啓

三月に入って気候はあたたかくなりつつあると天気予報では言うようになりました。でもあたしね、どうしても今年の春はやけに寒いと、そんなことばかりを感じるの。なんて言うのかな。……何か、こうね。体のしんから冷えるってわけじゃあないのだけれど。肌の先がピリピリすると言うか。これもきつとアレのせいだとあたしは思うのだけど。

あらいけない。かしこまった文章を書くつもりだったのに。あたしね、どうしても文章を書いていると感情の方が先走って余計なことまで言ってしまう癖があつて……。

ああ、こんな時に裕子がいれば！

裕子というのはね、あたしの親友で、とてもできた人なの。……ええ。裕子がいさえすればこんな手紙も完璧に書き上げてくれたでしょうに。

でも裕子は今、どこにいるのかわからなくなってしまったの。え

@

...

え、そもそもこの手紙は裕子のことについて話すために書いているんです。

まずは裕子について話さなくてはならないと思うの。

裕子に初めて会ったのはあたしが中学二年生の時だから、つい一年前のことだけれどもあたしは裕子のこと誰よりも理解してたつもり。

なんたつてあたしと裕子は親友なんですもの。毎日一緒に給食を食べて、トイレに行くときは必ずついて行つたし、ついて来てもらった。だからあたしは裕子が食べ物に好き嫌いはなくお箸を上手に使つてごはんを食べることを知ってるし、彼女がいつ生理になるか予想だってできた。

あら、またあたしの話になっちゃった。裕子の話に戻すね。

裕子とはとにかく「完璧」の二文字がびったりな女の子だった。

身長一五〇センチの体重四五キロ。短く切った黒髪からはいつもほんのりとレモンみたいなお色がしていて、とてもかわいらしい顔立ちをしてた。頭もよくて、いつもクラスの一番か二番の成績な

のに、いばったことは一度もなくて、むしろ成績がいいことがまるで恥ずかしいことみたいにテストの点数をいつも隠してた。

ほかの女の子みたいに目立つことは大嫌いでいつもニコニコしてるのだけでも、なにかしら困ったことがあると人が変わったみたいに真剣な顔をして、瞬時にトラブルを解決してくれた。

裕子に聞けばわからないことは何でもわかった。でも裕子は知識をひけらかすことはしなかった。聞かれない限りは、もしくはトラブル解決に必要なじゃない限りはほかの人の話をフムフムと聞いてニコニコと笑っていた。

裕子は水泳部に所属していた。そして毎年大会のシーズンになると体育館で校長先生に表彰された。

ねえ、裕子は完璧だったっていうのもうなずけるでしょ。

そんな裕子があたしなんていうなんのとりえもない子と親友になるなんておかしいってみんなが言うけれど、あたしはそうは思わない。

あたしは裕子を守ってた。

裕子はあまりに完璧で、純粹だったから、彼女の名声のおこぼれをもらおうとしてた奴等がたくさんいた。あたしはそういう奴等を追い払ってあげてたのだ。

たとえばユッキーナ。ユッキーナは親の言いっけで進研ゼミをや

ってたんだけど、その中に入ってる赤ペン先生の添削問題を裕子に解かせてた。

ユッキーナの親は厳しい人らしい。添削問題の点数が低いと文句を言われるらしかった。それでユッキーナは自分のやらなくてはならない添削問題を自分の代わりに裕子に解いてもらってたらしい。なんたって彼女に解いてもらえば満点間違いなしなもの。

あたし、腹が立って裕子に言ったんだけど、裕子は「そっかあ、満点だったんだ」としか言わないんだから……。ええ、裕子は完璧だったけど、同時にとっても純粹だった。あたしはユッキーナに裕子には近づかないようにってきつく言っておいた。あたしは裕子を守ったんだ！ ただ、次の日に裕子が泣いてたのはどうしてかわからないんだけど……。

ええ、話をもとに戻しますね。

そういうわけで裕子は完璧で純粹だったんだけど、いつの日からか様子がおかしくなってきたの。突然笑わなくなって話しかけてもうわのそら。なんか、おかしい。そう思ったわ。

そこであたし、こう思ったの。原因は最近流行ってるっていうツイッターってやつじゃないかって。

最近裕子がやけに携帯をいじくってるのはわかってたけど、あたしと話をするときもそんなことするなんて失礼じゃない？

だからあたしもツイッターのアカウントを作って裕子のアカウ

ントを探してみたの。そうしたら裕子のアカウントったらカギがかかって見れやしない。あたしが裕子をフォロー申請しても申請を許可してくれないもんだから、裕子に直接「許可してよ」って言ったの。そうしたらいままで百近くあった裕子のツイート数が数十個にまで削除されてからフォロー申請を許可されて……。

でも、そこまでは許せたのよ。問題はね、あたしの知らない人（しかもカギ付アカウント！）とあたしの知らない会話をしてるってこと！

こればかりはそういった人のかたづけからフォロー申請するわけにはいかなかった。だって、申請を許可されるかなんてわからなかったんですもの。

でもね、もっと頭のよいことを思いついたのよ。ここだけの話、ツイッターのアカウントのパスワードを盗んじゃえばいいんじゃないかって。

これはね、一度あたしのアカウントにフィッシング詐欺のDMが来たときに思いついたの。成功するかは微妙だった。なんたって相手は裕子だもの。裕子にフィッシングのDMを送って、フィッシングだつてばれなきゃいいのだけれども、それが難しい。

成功したときはびっくりした。そしてそこでわかった裕子のあたしの知らない人との会話の内容を見て驚いたわ。

なんたって中身は弱音と鬱ツイート、それからあたしの悪口ばかりだったんだもの！

裏切られた気がしたわ。

あんだけ裕子に尽くしてやったのに、あの子に言わせればあたしは「ストーカー」ですって？ ふざけるのめたいがいにしてほしいわ。わたしはあの子を害のある人たちから守ってやってたのに。何が一番あたしを裏切られた気分にしたかたつて、裕子は別に完璧でもなんでもなくてあたしと同じようにあのかわいい口で弱音も鬱発言も悪口だつて吐くってこと！

この絶望感わかるでしょ？

あたしは裕子をあたしの家に呼び出したわ。ちょうど家族がみんな出かけてる時だった。

そうしたら裕子は泣きながらあたしがアカウントのパスワードを盗んだことを責め立てるんだもの。腹がたつてしょうがなかったわ！

そのときよ。私の頭の中で、偶像は壊さなくてはならない、美しいものは美しいままでなくてはならない、という声があったのは。

それ以来裕子を見ていないの。だからこの手紙を書いています。探偵さんは人探しが得意なんですよ？ はやく裕子を見つけ

てください。

くれぐれも気をつけてほしいのは本物の裕子を見つけてほしい
つてこと。弱音や愚痴を吐く、偶像の裕子じゃないのよ？

お金のことはまた連絡してね。これでもあたし、結構バイトして
るからお金はあるのよ？

敬具

黒田竜彦探偵様

平井静香

二〇一二年 三月

「女子中学生、変死」 毎毎新聞 三月一日十八時二十九分

Y県A市のA森付近で先月二十九日未明、女性の遺体が見つかった。身元は同市に住む中学三年生の渡辺裕子（二〇）とみられており、首を絞められたような跡があることから警察は殺人とみて捜査を進めている。